同人誌即売会レポート（東京ビッグサイト）

国際日本学部　日本文化学科３年　櫻澤 真菜佳

２０２３年11月23日、勤労感謝の日に私たち、ジェームズ・ウェルカー先生のゼミナールの生徒は、人混みに揉まれながら国際展示場駅に集合しました。かくいう私もですが、即売会への参加経験が少ないメンバーが多く、待ち合わせには不安がありましたが、何とか無事に駅前に集合し、秋晴れの中、冷たい風を切り東京ビッグサイトへ向かいました。

同人誌即売会とは、同人誌を配布・頒布・販売する集会です。単に「イベント」とも呼ばれます。同人誌の種類は大きく分けて２つで、「オリジナル」（一次創作）と「パロディ」（二次創作）に分かれます。私がまず驚いたことは、人の多さと最近では同人誌だけが販売されているわけではないということです。例えば「推し活」に必要な、ぬいぐるみに着せる服やトレカケース（元々はトレーディングカードケースの略ですが、現在は「推し」の写真を入れたりする、飾り付けされた硬質カードケースのこと）やかばんなどの小物、アクセサリー等、様々なものがハンドメイドで売られていました。また、カヌレや肉巻きおにぎり、お菓子など食べ物が屋台で売られており、「イベント」と呼ぶにふさわしいお祭りのような賑わいでした。

まず、私たちは数班に分かれ、イベント内を自由に見学しました。このイベントでは若い女性がとても多く、一般参加者とサークル参加者の交流は盛んに見えました。しかし、このイベントは「パロディ」の作品が頒布されており、各エリアごとの作品の題材やテーマによってジャンルが分けられていました。例えば、大きく分けてアニメ作品の二次創作とゲーム作品の二次創作、そこから更に細かくシリーズや、登場するキャラクターなどでも分けられています。そのため、各エリアごとに年齢層や作品のテイストが異なっていました。例えば、ゼミナールのメンバーが購入した推しのぬいぐるみに着せるハンドメイドの服やカチューシャなどの小物が頒布されているサークルでは、私たちと同年代の女性達が非常に多く、混雑していました。一方で、カバンやハンカチ、Ｔシャツなどが頒布されているエリアでは、年齢層は高く、落ち着いた様子でした。また、コスプレ交流エリアは、テーブルが並べられたサークル参加者エリアとは異なり、広く何も無いエリアにコスプレイヤーとカメラマンが満員電車のように混雑し、写真を撮れる状況では無いのではないかと思う程でした。また、Ｒ18相談コーナーがあり、イベントで性的な作品に関する様々な意見を書くノートが用意されており、厳しい意見も多く見られました。

私たちは様々なエリアを見学したあと、私たちのゼミナールの先輩であり、以前にこのレポートを書いた松本悠里圭さんの元へ向かいました。松本さんはこのイベントでサークル参加しており、「一般参加」からの目線だけでは分からないことを教えてくれました。

まず、「サークル参加者」（特に二次創作作品）は利益を出してはいけないということがあります。そのため発行部数や、作品の表紙や、カラーの印刷などの費用の計算は細かく指定します。また、「壁サー」と呼ばれる配置が壁に近いサークルは、人気サークルで作品の発行部数も多く、列ができるため壁側や出入口近くの「並びやすい」場所に配置されているようです。余剰金は無料配布するノベルティーなどを作ったり、「サークル参加者」同士の差し入れなどに充てられることも

あります。また、入稿の大変さを教えていただきました。「サークル参加者」は、普段は本業の仕事をしていたり、漫画家や学生など様々です。趣味で利益もない作品を作り上げることは、仕事や学業との両立が非常に難しいと思います。題材の作品に対してや、オリジナル作品でも相当な熱意が必要です。

こうして私たちは「同人誌即売会」とは何なのか、ということを学び、会場を後にしました。現在では、ＳＮＳでメジャーとなっている「自分の作品」を他人に見てもらい、評価されることや、配布、頒布、販売等により、様々な人の交流が行われています。しかし、ＳＮＳだけでなく実際に「イベント」に参加することで、その交流がより豊かになるのではないかと思いました。私たちが見たイベント参加者達は、笑顔で達成感や高揚感に満ちていて、作品をただ「売買」しているだけでは無いのだと強く思いました。

同人誌即売会へ向かう途中のゼミの生徒と
東京ビックサイトを後ろから撮った写真